02 土木・建設業のSDGs

土木・建設業が取り組むSDGsとは？

土木・建設業とSDGsの関係

土木・建設業界は、人々が安心して暮らせる社会をつくるために、住宅環境の整備やまちづくり・インフラ構築・省エネ・環境保護などに取り組んでおり、事業の理念そのものがSDGsに合致しています。国際的な目標であるSDGsへの取り組みは、経営方針や日常業務を見直すきっかけとなり、継続的な事業戦略、新規事業の創出などにつながります。

土木・建設業に期待される3つの目標（SDGsの目標）

ゴール8

働きがいも経済成長も

土木・建設業の取り組みは、すべての人々の良好な生活基盤の提供に貢献します。また、環境不動産の市場形成などにより、新規雇用の創出と経済活性化に大きな貢献を果たします。

ゴール11

住み続けられるまちづくりを

全世界的に都市化が進むなかで、建設産業の果たし得る役割は益々大きくなっています。建設構造物は都市の基盤であるため、より良い構造物を長期にわたり利用できるようにすることで持続可能な都市の創出に貢献することができます。

ゴール12

つくる責任つかう責任

環境負荷抑制のために、構造物の設計者にも使用者にもその責任が問われます。例えば、構造物の長寿命化と効率的な利用で、資源の利用効率を向上させることができます。

参考：建築産業にとってのSDGs（持続可能な開発目標）ー導入のためのガイドラインー（2019年一般財団法人日本建築センター出版）